えんちょう先生のわくわくだより

NO. 15　H28. 8. 23

岩村の誇り高き先人

佐藤　一斎先生！

日曜日に、恵那市文化センターで行われた「生涯学習フォーラム 2016」の特別講演に参加された保護者の皆様もあるかと思います。テレビのコメンテーターとしてもおなじみの齋藤　孝教授（明治大学文学部）による佐藤一斎「言志四録」を読むと題して一時間半の講演でした。

恵那市の三学の精神とは、社会に役立つ有為（才能がある）な人になろうと、生涯学び続ける志であり、子どもも大人も高齢者もみんなで学んで幸せになろうと説く佐藤一斎の精神です。この齋藤先生は、『最強の人生指南書　佐藤一斎「言志四録」を読む』を執筆されています。そして、まさに、この佐藤一斎さんの「言志四録」こそ、人生をどう歩んだらいいのかを教えてくれるお手本となる道しるべ。郷土にこんな偉大な方がいた事が、こども達にも精神的な支えとなるはず。「こんな偉大な先生がこう言っている！」が生きる指針になるでしょう。と話されました。

一燈を提げて　闇夜を行く
闇夜を憂うること勿れ
只だ　一燈を頼め

自分がこうと決めたら、人が批判をしたり、あざ笑ったりしても、強い思いを信じて進む事。
それがあなたにとって大事な一燈なのです
不安な暗い夜を怖がらず、これで行くのだ！と、勇気を持って進め！・・・

春風を以て人に接し
秋霜を以て自ら粛む

人には、春の風の様に、温かく元気が与えられる様に接し、自分には厳しく秋の霜のように
気持を引き締めて生活したいものです

など、一一三三条の言葉を残した佐藤一斎さんを生んだ岩村は、大事な宝を持っています。

「佐藤一斎先生と呼びましょう」。　今の若い学生を見ているとメンタルが弱い。あれこれ、先を案じ心配ばかりしている。体が小さい日本人が、世界の中で頑張ってこれたのはメンタルの強さだったはずです・・・江戸時代、人生の教訓を唱えた佐藤一斎先生の言葉を人生の座右の銘として、自分の好きな言葉をいくつか覚えるといいですね。・・・と。そして、小さい内から、そうした自分を支える言葉をこども達にも教え、声に出してつぶやいていく事が大事です・・・・と。岩村の歴史については、春のお城山遠足の際に、こども達に話し聞かせたのですが、郷土の先人、しかも西郷隆盛さんを始め、明治維新を導いた数々の歴史上の武士達に影響を与えた誇りある「佐藤一斎先生」の言葉を、折りに触れこども達にも解りやすく話していきたいと思います。佐藤一斎先生は、自然からも学べ！と言ってみえます。・・齋藤先生には、ユ～モアたっぷりに、岩村の心の財産について教えていただき、とても充実した時間を過ごせました。

保育の合間に・・

体調が悪くてプールに入れない子に、「ひまわりの葉っぱの上に、こんなかわいいカエルがいたよ」とアマガエルを見せると、「ほしい」「どこにいたの～」と、とびつくこども達。「草むらをよーく捜してみ」と声を掛け草を取っていた私ですが、すぐに「おらん」「どこにもおらん」と戻ってきてしまいます。「よ～し、園長先生が捜してみるよー」と、園庭の周りの草を靴でトントンとたたくや否や、「ほら、かえるだ！」「バッタもいるよ」二匹のカエルと一匹のバッタがすぐに見つかりました。こども達は、ほしいにはほしいけど、どんな所に、カエルがいて、どうやったら見つけ出せるのか？が解らないらしいです。昔、家で、一人一人布袋を縫って貰い、秋になると大勢のこども達とイナゴ掴みによくいった事を思い出しました。あちこち飛び回るイナゴを、おわんに伏せた手で、いっぱい捕まえたものです。考えてみれば、自然の中での遊びが本当に少なくなった今、遊びだけでなく勘考や、経験、そして体の使い方も含めて、教育を考えていかなければならない危機感を感じます。